

2024年3月期第3四半期決算 Web 会議 議事録 主な Q&A

日時：2024年2月1日 木曜日 15:00～16:00

Q1. 加工事業本部の改善活動効果の通期計画引き下げ、火災影響について

A1. 主力商品の販売数量が計画未達となったのが要因である。シャウエッセンは回復しており、2Qと比較して販売環境が変化しているわけではない。1月11日に発生した物流センターの火災影響は4Qに6億円の機会損失が発生する。一時的な影響であり、本年度中の解消を目指す。一部4月上旬まで影響が残る可能性がある。

Q2. 加工事業本部の来期の見通しについて

A2. 4月1日(一部3月1日)より商品規格変更・商品価格改定を実施する。来期は主原料を中心に諸々のコストが上昇すると見込むが、改定効果を発現してオフセットする。主力ブランドのシャウエッセンの販売に注力して商品ミックスを改善させる。構造改革の効果の大半は中計2026の2年目以降に発現する想定。

Q3. 食肉事業本部の今期の鶏肉相場、販売(フード)部門の見通しについて

A3. 国産鶏のファーム事業は飼料価格の高止まりの影響を受け、通期計画を引き下げた。販売(フード)部門は国産鶏肉の相場下落に伴い販売価格も引き下がっており、利益の伸長は鈍化している。しかし、販売数量は前年の好調な水準を維持しており、販売環境としては大きく変化はない。

Q4. 食肉事業本部の来期の見通しについて

A4. 国内生産において飼料コストの影響が残るが、米国産牛肉の減産により追い風となっている豪州産牛肉を拡販し利益を確保する。販売(フード)部門は都市部での販売数量の拡大を強化する。内部改善としては国産豚肉事業の収益改善に取り組み、ファーム事業のコスト改善や販売方法の見直し等の改革を進めていく。

Q5. 海外事業本部の豪州事業の今期・来期の見通しについて

A5. 豪州事業の1月の状況は降雨の影響により出荷抑制が発生し、生体価格が上昇したため牛の仕入れにおいてはアゲインストな状況となっている。来期に向けては、米国・日本・豪州国内向けの販売を強化する。

Q6. 海外事業本部の来期の見通しについて

A6. 来期の事業利益はアジア・欧州事業での懸念はあるが、豪州やアセアンでの増益や米州の今期並みの利益水準を維持することから、50億円程度の利益をイメージし、今後精査を進めていく。

以上